

実践力習得のための行動指標を基盤とした研修設計

—看護分野から栄養分野へのデザイン原則の適用—

Training Design Based on Behavioral Indicators for Practical Skills

—Application of Design Principles from the Nursing Field to the Nutrition Field—

菊内由貴^{**} 喜多敏博^{***} 中野裕司^{***} 戸田真志^{***} 鈴木克明^{****} 平岡斉士^{*****}

Yuki Kikuuchi^{**} Toshihiro Kita^{***} Hiroshi Nakano^{***} Masashi Toda^{***}
Katsuaki Suzuki^{****} Naoshi Hiraoka^{*****}

*国立病院機構四国がんセンター **熊本大学大学院 教授システム学専攻
熊本大学半導体・デジタル研究教育機構 *武蔵野大学響学開発センター *****放送大学
* National Hospital Organization Shikoku Cancer Center ** Graduate School of
Instructional Systems, Kumamoto University ***Research and Education Institute for
Semiconductors and Informatics, Kumamoto University****The Enhanced Learning
Development Center, Musashino University***** The Open University of Japan

＜あらまし＞ 医療の専門分化に伴い、基本的な臨床実践を積んだ後もさらに専門的な実践力習得の必要性が生じている。多忙な業務の中での実践力習得は効果効率的な設計が重要である。本稿は、看護分野の実践力習得のための効果効率的な研修デザイン原則を栄養分野に適用し、行動指標を基盤として LMS や会議システムを活用し独習、協調学習、対面学習の 3 つのフェーズで構成される知的技能中心の研修設計を行った。この設計はインストラクショナルデザイン（以下、ID）の専門家レビューの結果、ID の特色を踏まえ臨床での効果効率的な実践力習得の実現可能性があるとの評価を得た。

＜キーワード＞ 実践力習得、行動指標、学習課題分類、インストラクショナルデザイン

1. はじめに

医療の専門分化に伴い、基本的な臨床実践を積んだ後もさらに専門的な実践力習得の必要性が生じている。多忙な業務の中での実践力習得は効果効率的な設計が重要である。

栄養分野では日本病態栄養学会（以下、「学会」）が、ある一定の実践経験を積んだ上で所定の要件を満たした者を病態栄養専門管理栄養士として認定し、さらにがん分野での要件を満たした場合がん病態栄養専門管理栄養士（以下、「がん専門栄養士」として認定する制度がある（がん病態栄養専門管理栄養士 2023）。この資格取得には、学会認定の実地修練施設での実地修練（以下、「研修」）が必要とされ、全国で 64 病院が認定されている。しかし本研修制度は始まったばかりで、効果効率的な設計についての報告はない。筆者は看護分野の実践力習得のための効果効率的な設計として、学習を行動に繋げる重要性を主張し、実践力としての行動指標を基盤として LMS(Learning Management System, 以下 LMS)と会議システム(Meeting System, 以下

MS)を利用した独習、協調学習、対面学習の 3 つのフェーズで構成される知的技能中心のデザイン原則を示した（菊内ほか 2023）。

そこで本稿は看護分野の実践力習得のためのデザイン原則を、がん専門栄養士の研修に適用して設計したので、その詳細を紹介する。

2. がん専門栄養士研修の概要

学会の研修要項には 300 時間の研修内容が示されているが、「参考」という位置づけであり、研修修了の到達目標や合格基準は示されていない。一方、資格申請条件には修練施設で行った栄養管理実績のうち 5 症例を申請用紙記載し提出することが示されているため、研修には実習を含む必要がある。

3. 設計の概要

3.1. 到達目標設置と行動指標の作成

研修要項では到達目標が示されていないため、研修指導者である管理栄養士と協議し、学会 HP 上の「がん専門栄養士とは」に記載された 8 項目を求められる実践行動と仮定し、到達目標とし本研修の行動指標を作成した。行動指標到達を目標に事例演習での知的技能

表 1 全体設計の概要

No	項目	内容	システム	フェーズ	学習課題	学習時間 標準(時)	指導時間 (時)		
Ⅰ	前提科目	前提知識	LMSテスト	独習	言語情報	9.0	設定のみ		
		オリエン テーション	LMS掲示板	独習		6.0			
				協調		3.0			
				MS		対面	2.0	3.0	
Ⅱ	演習科目① 模擬事例	基礎知識	LMSテスト	独習		9.0	設定のみ		
		模擬事例演習	LMS掲示板	独習		10.0			
				協調		5.0			
				MS		対面		2.0	3.0
				LMS掲示板		独習		3.0	1.0
Ⅲ	実習	修練施設実習		対面		知的技能	40.0	40.0	
Ⅳ	演習科目② 実習事例	実習事例演習	LMS掲示板	独習		20.0	設定のみ		
				協調		10.0			
			MS	対面		2.0		3.0	
			LMS掲示板	独習		5.0		1.5	
Ⅴ	クロージング	まとめ	LMS掲示板	独習		6.0	設定のみ		
				協調		3.0			
			MS	対面	2.0	3.0			
Ⅵ	フォローアップ 演習科目③ 自施設事例	自施設事例演習	LMS掲示板	独習	知的技能	20.0	設定のみ		
				協調		10.0			
			MS	対面		2.0		3.0	
			LMS掲示板	独習		5.0		1.5	
					計	174.0	59.0		

中心に構成した。また行動指標到達の成果物に実習 5 症例の申請用紙記載を位置づけ現実的な課題と繋げた。事例は申請に必要な疾患区分を網羅的に作成するが、本稿では一事例を含むプロトタイプとして設計した（表 1）。

3.2. 行動指標到達に繋ぐ研修項目構成

研修項目は、I 前提科目～VI フォローアップの 6 つで構成し、前項目の合格を各項目の参加要件とした。全ての研修項目で行動指標を活用し学習成果と行動との繋がりを示した。模擬事例演習と同じ構造で実習事例や自施設事例の演習を行うことで学習と臨床行動を繋ぐよう設計した。

3.3. 研修に要する時間

標準学習時間を示しているが、対面学習以外のフェーズでは学習者個々に必要な時間をかけることが可能である。独習や協調学習での合格基準の明示により指導者不要の学習環境を実現し、学習時間標準 174 時間に対し指導時間 59 時間と指導時間を 33.9%に削減している。

4. 設計の評価

設計の評価は、ID の専門家 2 名に依頼した。その結果、本設計は ID の特色を踏まえ臨床でのがん専門栄養士の効果効率的な実践力習得を実現する可能性があるとの評価を得た。

5. まとめ

看護分野の実践力習得のためのデザイン原則は栄養分野の効果効率的な実践力習得を実現する可能性があるとの評価を得た。今後はこの設計の実行と評価が課題である。

参考文献

- がん病態栄養専門管理栄養士（2023）
<https://www.eiyou.or.jp/certif/cancer.html>（参照日 2023.11.07）
 菊内由貴，喜多敏博，中野裕司，鈴木克明，平岡齊士（2023）学習課題分類に基づく従来版研修の現状分析と改善設計．第 15 回日本医療教授システム学会総会・学術集会抄録集，pp.91